

報道関係各位

令和6年10月2日
国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産大学校

練習船耕洋丸第116次航海（遠洋航海）出港式（お知らせ）

概要

令和6年10月13日（日）、国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産大学校所属漁業練習船「耕洋丸」は、乗組員及び教員33名、海洋生産管理学科29名および海洋機械工学科25名の4年次生54名、合計87名を乗せ、太平洋方面へ69日間の遠洋航海に出港します。

本航海では、乗船学生に対する航海学・機関学など船舶運航に関する講義実習のほか、航海運用・機関実習・漁業（まぐろ延縄）実習・海洋観測実習を実施します。本航海の国内寄港先は那覇港・鹿児島港・高知港のほか、国外寄港先にポンペイ港（ミクロネシア連邦）を予定しております。

なお、出港日の10月13日には、13時20分より出港式を執り行います。
詳細は、別添資料をご覧ください。

注 出港式は小雨決行、荒天の場合は中止することがございます。
中止の場合は水産大学校ホームページ上でお知らせ致しますので、ご承知おき下さい。

（別添資料）

1. 水産大学校練習船耕洋丸第116次航海（遠洋航海）出港式について
2. スタンバイの謂れ
3. 耕洋丸出港式取材申込書

問い合わせ先

[練習船耕洋丸第116次航海に関すること]

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産大学校
校務部長 今治 和人
TEL 083-286-5111

[取材申込・その他本校広報に関すること]

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産大学校
業務推進課 野村 秀太 関原 渉
TEL 083-264-2033 / E-Mail : zenpan@fish-u.ac.jp

水産大学校練習船耕洋丸第116次航海（遠洋航海）出港式について（配付資料）

1. 出港式日時 令和6年10月13日（日）13：20～13：50 予定

2. 場 所 下関市岬之町埠頭26号岸壁（別紙「練習船へのアクセス」参照）
※ 小雨決行、荒天の場合は船内で行うため中止となります。
（中止の場合は、本校ホームページ上でお知らせします）
※ 当日は本校関係者・取材者の車両に限定して駐車を許可する予定です。お車でお越しの際は、別紙取材申込書をご提出下さい。

3. 出 港 日 時 令和6年10月13日（日）14：50 予定

※式次第

- 1) 開式の辞
- 2) 校長式辞 下川 伸也（しもかわ しんや）（水産大学校校長）
- 3) 来賓祝辞 前田 晋太郎（まえだ しんたろう）（下関市長）
（市長代理） 島崎 敏幸（しまざき としゆき）（副市長）
- 4) 代表祝辞 藤井 徹生（ふじい てつお）（水産大学校代表理事）
- 5) 実習生代表挨拶 坂上 怜音（さかのうえ れおん）（海洋生産管理学科4年生）
- 6) 船長挨拶 古賀 淳司（こが じゅんじ）（漁業実習船耕洋丸船長）
花束贈呈 渡辺 史江（わたなべ ふみえ）（専攻科船舶運航課程）
- 7) 閉式の辞

※閉式後、学生有志によるスタンバイがあります。

スタンバイについては、別紙「スタンバイの謂れ」をご参照下さい

漁業練習船 耕洋丸（国際航海船（第三種甲区域））
定係港 下関港（下関市）
総トン数（国内） 2,352トン
国際総トン数 2,703トン
全長 87.59m
出力 3,900kW（2サイクル）
船型 鋼製スタントロール型
航海速力 約14ノット
最大搭載人員 109名
竣工 平成19年（2007年）6月

乗船人数 乗組員及び教員数 33名
学 生 数 海洋生産管理学科 29名
海洋機械工学科 25名
合 計 87名

航 程 8,435海里
航海日数 69日間
教育内容 航海運用
機関実習
漁業実習（鮪延縄漁業）
海洋観測実習

寄 港 地 ポンペイ港（ミクロネシア連邦）
那覇港（沖縄県）
鹿児島港（鹿児島県）
高知港（高知県）

快鷹丸 殉難歌

逢いはせなんだかよ（ソレ）
館山沖でよ（ソレ）
二本マストのよ（ソレ）
快鷹丸そかよ（ソレ）
（ゴウヘイ
ゴウヘイ
ゴウヘイサア）

沖にチラホラよ（ソレ）
航海ランプよ（ソレ）
あれは水産のよ（ソレ）
快鷹丸そかよ（ソレ）
（ゴウヘイ
ゴウヘイ
ゴウヘイサア）

糧はつきるともよ（ソレ）
元気はつきぬよ（ソレ）
遠洋漁業のよ（ソレ）
勇ましい姿よ（ソレ）
（ゴウヘイ
ゴウヘイ
ゴウヘイサア）

快鷹丸メモ

総トン数 137.66GT
全長 28.85m
船型 スクーナ型帆船（2本マスト）
造船所 IHI〈石川島播磨重工業〉

スタンバイの謂れ

明治40年9月、水産講習所練習船快鷹丸は実習航海の途中、韓国迎日湾で猛烈な暴風雨に遭遇し、必死の救難作業の甲斐もなく座礁した。痛ましい海難で発生した犠牲者の教官1名と学生3名を追悼するために作られた鎮魂の詩がこの殉難歌である。詩吟に合わせて行う動作と掛け声は、船内に打ち込んだ海水を汲み出し、快鷹丸を前進させる意味を表す。

本来、スタンバイとは用意の意味を表す号令詞であるが、快鷹丸殉難歌の詩吟に合わせて行う動作の用意のために指示した号令詞「快鷹丸殉難歌スタンバイ」の「スタンバイ」が、歴史の過程で、詩吟に合わせるこの動作を意味するようになった。

水産大学校学寮「滄溟寮」の伝統的行事として、4年生の遠洋航海の出港時、航海の安全を祈って滄溟寮の1、2年生により行われる。また時に、同窓会、惜別の会などで心を一つにする時、列席した同窓生により行われることがある。

近年、他の大学には全くみられないバンカラの気風が、海と水産の意気込みを示す水産講習所下関分所時代からの伝統として、学寮「滄溟寮」に伝えられている。

文責：本村紘治郎

（元水産大学校校長、漁業学科17期卒）

2024年 10月 日

水産大学校 あて
FAX 083-264-2080

耕洋丸出港式取材申込書

取材日	2024年10月13日(日曜日)
到着予定時刻	
社名	
取材者氏名	
	計 名
連絡先	

※駐車台数に限りがございます。1台でのご来場にご協力をお願いします。